

雑草・病虫害防除は早めに

一部では田植えが始まっておりますが、今後は気温が高くなる予報が出されているため、早めの除草剤散布を心がけてください。また、代枯れ症状が見られた圃場については、除草剤の影響を受けにくくなる新葉の出葉が確認されるのを待って散布してください。

また、初中期一発剤の使用後に雑草の残った場合は、以下の薬剤で対応してください。

1. 中・後期除草剤の雑草防除

薬剤名		成分数	使用時期	ヒエ葉令	適用雑草
ヒエ剤	クリンチャー-1キロ粒剤	1	田植後7日～ 収穫30日前	4.0葉	ノビエ
	トドメMF1キロ粒剤		田植後14日～ 収穫50日前	5.0葉	ノビエ 残効性あり
	クリンチャー-EW		田植後20日～ 収穫30日前	6.0葉	ノビエ 展着剤加用 10a当り100ml/水25～100ℓ
ヒエ・広葉剤	レブラス1キロ粒剤	4	田植後14日～ 収穫60日前	4.0葉	オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、ホタルイ、マツバイ
	ワイドショット1キロ粒剤	2	田植後15日～ 収穫45日前	4.0葉	オモダカ、クログワイ、セリ、マツバイ、ホタルイ
	クリンチャー-バスME液剤	2	田植後15日～ 収穫50日前	5.0葉	ノビエ、広葉雑草 10a当り1,000ml/水70～100ℓ
	ウイドコア1キロ粒剤	3	田植後7日～ 収穫60日前	4.0葉	ノビエ、オモダカ、イボクサ、アゼガヤ、マツバイ
広葉	ハサグラン液剤	1	田植後15日～ 収穫50日前	広葉雑草	落水又はごく浅水で使用 10a当り500ml/水70～100ℓ

2. 病虫害防除

イネミズゾウムシやイネドロオイムシの発生量は「平年並～多い」との予報が出されており、イネヒメハモグリバエの発生量は「少ない」となっております。今後は圃場内を注視のうえ、葉の枯死等が見られた場合はつぎの薬剤で防除に努めてください。

薬剤名		成分	使用量/10a
トレボン	粒剤	1	2.0 kg
	粉剤DL		3.0 kg

※ 農薬の使用に当たっては使用法を確認し、環境に配慮した施用量等を心がけてください。

「水稻技術情報」<https://www.ja-ogata.or.jp/farming2/>をホームページで閲覧の際は、これまで必要だったパスワード入力なしで閲覧可能になりました。

※水稻以外の技術情報は、これまで通りパスワードの入力が必要です。